

2015/8/20 例会卓話 <齊藤 実 様>

皆様こんばんは！今、過分なご紹介いただきました齊藤でございます。今日は例会卓話に呼んでいただきまして誠にありがとうございます。

私は、今期 2580 地区バギオ基金支援特別委員会の委員長をおおせつかっております。所属クラブは、錦糸町東武ホテルで例会をやっております東分区の「東京臨海 RC」でございます。スカイツリーが目の前に見える、下町の良い処ですので是非皆さん一度お越しになってください。

バギオ基金についてということで歴史、生い立ちを皆さんにお話したいと思えます。40 年近く続いておりますので、短い時間でお話するのは厳しいのですが、駆け足で時間内に終わらせたいと思えます。

東京御苑ロータリークラブは黒岩会長、豊田副会長、矢野幹事はじめ、皆様の努力でここまで推移していると伺っており、敬意のいたりでございます。私は本来ならば一級建築士ですので 2020 年東京オリンピックの新国立競技場の裏話でもした方がもっと面白いかと思えますが、今日は役目柄バギオ基金のお話をプロジェクターを使ってさせていただきます。

まず概略から始めます。皆様ご存知のようにフィリピンというのは台湾、サイパン、インドネシア、ベトナムなど四方の海に囲まれ、7,000 以上の島がある国です。このなかで一番大きなルソン島の、首都マニラから北へ約 250 キロ離れた、標高 1,500 メートルの高地にありますのが「バギオ」というところです。

日本で言えば軽井沢のような避暑地、サマーキャピタルというところです。一昨年レイテ島タクロバンというところの島は大変な台風被害を受けました。またダイビングをやる方はよくご存知だと思いますがバナナのような形のセブ島は、有名なところでございます。

1903 年、明治 36 年、ロータリークラブができる 2 年前にフィリピンのサマーキャピタルと言われるバギオに向かう凄惨な山岳の道を日本人労働者が大勢出稼ぎに行ったというのはあまり知られておりません。ハワイのサトウキビ畑とか、ブラジルのコーヒー園のことはご存知だとは思いますが、フィリピンにも 53,000～55,000 人の人たちが渡り、バギオへ向かう山岳道の工事は 50 人にひとりくらい人柱ができるような過酷な労働でしたが、勤勉な働きによってベンゲット道路が完成しました。そして完成後は現地の人と結婚をして、バギオに豊かな邦人社会を作り暮らしていました。

そして不幸にも 1941 年、昭和 16 年 12 月 8 日、パールハーバーと呼ばれる真珠湾攻撃によって第二次世界大戦が勃発しました。フィリピンは第二次世界大戦の最大の激戦地と言われ、628,000 人の日本軍人・軍属がそそぎ込まれ、帰って来たのは僅か 10 万人、いわゆる 50 万人の方がこの地で亡くなっています。

そして当然バギオ等に在住する日系二世の方達は、日本軍に徴用されたばかりに、敗戦後日系人とわかれば厳しい迫害を受け、日本人であることをひた隠し、大変惨めな体験を余儀なくされたので、バギオの山奥に隠れて想像を絶する悲惨な生活をしておりました。戦後 70 年ということでテレビや新

聞等々で戦争の話が出ています。

そんな捨てられた民に救済の手を差し伸べたのが「シスターテレジア・海野」さんでした。還暦を機に「何か私に出来ることはないの？」と貧しい国でありますフィリピンに渡ってベンゲット道路建設に日本人が従事し、多くの日系人がいることを知り、その人達がどういう生活をしているのか心配になり、山に分け入りしました。「もう戦争が終わったのだから、下におりてきても大丈夫ですよ」と、日系人を探して消息を訪ね歩きました。そういう人達が 20 数年ぶりに日本語を話し、海苔巻きを食べながら大きな声をあげて泣いたそうです。シスター海野さんがそういう悲惨な生活をした人達に何かしてやれないかと思案されました。貧しさから子供たちを学校に行かせられないので基金を設立しようということを考えました。バギオに慰問に行っていた日本の兵隊さんの中にロータリアンがいました。この恵まれない日系人の子供たちに奨学金を提供し、この国の為にならぬ人材を育てる協力をお願いできませんかと相談があり、始めました。

そして 1981 年 9 月、今は東京は 2750 地区・2580 地区と分かれています。当時は 258 地区として東京全部がひとつの地区でした。初代名誉会長に北クラブの竹田恒徳さん、初代会長に銀座ロータリークラブの服部禮次郎さん。このメンバーでバギオ基金を設立しました。

世界社会奉仕として一隅を照らす事業であるということで、栄えある業績賞を頂き、このバギオ基金がスタートしたのです。前後しますが、カルロス寺岡さんという方がフィリピン側のバギオ基金の理事長でございます。2～3 年前まではバギオ名誉総領事という大変偉い方が代表になっていました。われわれはロータリークラブですから WCS 活動の一環として、バギオ市内にあるロータリークラブ中の、バギオロータリークラブとバギオサマーキャピタルロータリークラブ、このふたつのクラブと姉妹クラブを結びそこを通して奨学金を提供しています。米山奨学会は、学生を日本の大学に行かせる為に奨学金を提供しますが、バギオ基金は、地元の高校・大学に通わせる為に奨学金を提供いたします。

歴代の役員さんは、初代が服部さん、それから秋山さん、吉田さんという方は 1～2 年で体調を崩され亡くなりました。4 代目の松原さんは紀伊国屋書店の会長さんで、この方が城西ロータリークラブの方で一生懸命やっておられました。私はこのとき副幹事としてお手伝いを始めました。そのあとが八王子ロータリークラブの矢野さんです。八王子実践高校というバレーボールの強い学校の校長先生です。その次が、当地区の学生寮和敬塾をやっておられます豊島東ロータリークラブのバスター前川さんです。そして現在は八王子南ロータリークラブのバスターの坂本さんです。坂本さんは、黒岩会長もよくご存知の 2750 地区の直前ガバナーで、そうそうたる方々がバギオ基金の会長になられ、先頭に立ってリーダーシップをとってやっておられます。

6/30 現在の数字ですが、奨学金を与える学生数は約 3,350 名でございます。現在留学生も 11 名、日本全国 34 地区から金額の多い少ないはありますが、全地区から寄付をいただいています。2 億 5,600 万となっておりますが、運用利益を含みまして正味財産は 3 億を超えました。

やはり継続は力なりです。35-36 年たちますと少し「塵も積もれば山となる」ではないですが、そういう規模になってまいりました。毎年バギオ訪問も実施しておりますので、訪問したロータリアンも 1,000 名を超えました。

維持後援会員ということで個人、法人は 3,000 円、ロータリークラブは 1 万円から受け付けております。無理のないところでご協力ください。外務大臣賞など、種々表彰を受けたりしています。また、来年は 35 周年の記念式典を挙行政致します。今迄は任意団体でしたが、規模も大きくなりましたので財団にしようという事で 2009 年 7 月に一般財団法人比国育英会バギオ基金として設立しました。

毎年ロータリアンが 50 名～60 名近く欠かさず訪問しています。毎年数名のバスターガバナーも参加しておられます。参加する度に、「あーこんなすばらしい事業をやっているのだな」と感動されております。

本日入会された池田さんもこういう奉仕をおやりになっているんだと思うのですが、ご存知のように彼らは、写真のようにむき出しのブロック壁やトタン屋根の貧しい家々で生活しております。電気も電灯もない、暗い山道を夜になったらどのようにして通うのか心配致します。ドラム缶に雨水を溜めてシャワー代わりにしている家庭もあります。最近、電気はかなり普及してきましたが、バギオの山奥に行くとこういう人達が大勢います。しかし、日系も 3 世も 4 世にもなるので中には成功した人もいますが、みんな明るい目をして一生懸命頑張っております。

フィリピンは大学や高校を卒業しても失業率が 50%近いので、なかなか就職もできません。基金も準備ができましたので留学生を日本に呼んで、日本の大学、短大に行かせて日本で就職ができないものかと留学生を毎年 2 人ずつ日本に呼んでいます。この二人は敦賀短期大学に通っています。彼女達はフィリピンの看護大学を出て看護師の資格を持っているのですが、日本では日本資格がないと就職できません。合格するまで補助的な仕事をしながら経験を積んで、日本の国家試験を受けるように今、頑張っているところでございます。

上野バスターガバナーのときの地区大会で、第 3 期生のアビゲイルさんがスピーチなどをしていますが、彼女は日系 3 世なので日本で就職活動が可能で、愛知県的美濃加茂市で職員として頑張っています。

最後になりますが、各クラブ、各地区でいろんな奉仕活動をやっていると思います。われわれもロータリーに入会したころは、タイの植林だとか井戸掘り、図書普及プロジェクト、地雷除去とかガバナーが代わるたびにいろいろな奉仕活動をやってきましたが、継続は力といいますが、やはり長く続いているということは事業として本物じゃないかと。本物だから長く続くというふうに自分は認識しておりますが、財団とか米山と比べると小さな微々たるものですが、実績も規模も小さいのですが、草の根運動でひとりひとりと仲間を増やして 40 年近くかけてきた事業でございますので、これからもみなさんの御協力を得ながら、身の丈に合った奉仕活動をバギオ基金は行いたいと思っております。

来年は 2 月 11 日から 14 日にかけて 3 泊 4 日の日程で第 37 回目のバギオ訪問を計画しておりますので、百聞は一見に如かずと申します。無理のないところで一度是非どなたか御苑ロータリークラブから一緒に行っていただくとありがたいと思います。

また、一般財団法人比国育英会バギオ基金を心の中にとめておいていただければありがたいと思います。ご清聴ありがとうございました。